

## 東海プラ協 現地調査:台風 18 号被害時における使用済みプラスチック処理の概要

日 時：平成 22 年 1 月 6 日（水）（11：00～12：00）

場 所：田原市役所

調査者：竹谷会長（名古屋大学名誉教授）

伊藤副会長（JA あいち経済連）

事務局（東海農政局園芸特産課 成瀬）

愛知県（園芸農産課 早川）

対応者：小川農政課長、大羽副主幹

### （1）農業用使用済みプラスチック処理に関する経緯と対応

・台風 18 号が東三河地域を通過したことにより、園芸用ハウスが被害を受け大量のガラス、プラスチックフィルムが排出された。

田原市、JA 愛知みなみでは、発生の翌日(10/9 日)から臨時の収集日（通常 11 月から 12 月）の検討を開始し、10/19 に設定することを決定するとともに、その内容を 13 日に市民館、JA 各支所に周知する等、迅速な対応が行われた。

・臨時の回収日は、計 5 回に上り、ピーク時の 11/30 日には搬入車両が 500 台を超え、和地町内の収集場所から 1km 近く繋がった。（下記写真参照）

### （2）農業用使用済みプラスチック処理費用に対する行政、JA 等の支援の概要

・従来の処理費用に対する支援は、田原市 60%、JA 5%、販売業者 4%、生産者 31%。

であるが、今回の被害により例年の排出量を超えて排出されたもの（全体で約 700t 強）については、田原市 75%、JA 21%、販売業者 4%と、生産者の負担を免除することとしている。

### （3）その他

・担当者のコメントとして農業用使用済みプラスチック協議会の組織があったことが、農業者の要請に応え処理業者との調整、処理費用への支援等を決定する上で関係機関との連携がスムーズに進み、不法投棄を生むことなく対応できた大きな要因であるとのことであった。

○計量のため田原市渥美最終処分場（又は、田原市和地町の最終処分場）に並ぶ生産者のトラックの列（最長 1 km）



○田原市渥美最終処分場（又は、田原市和地町の最終処分場）の最終処分場に集められた農業用使用済みプラスチックの状況



## 東海プラ協 現地調査:JA 愛知東における再生処理に向けた収集の検討

日 時：平成22年1月6日（水）（14:30～15:30）

場 所：JA愛知東 北設営農センター

調査者：竹谷会長（名古屋大学名誉教授）

伊藤副会長（JAあいち経済連）

事務局（東海農政局園芸特産課）

愛知県（園芸農産課）

対応者：村松係長

### （1）農業用使用済みプラスチック処理に関する経緯と対応

・愛知東農業協同組合管内の北設営農センターでは、農業者は分別して搬入するものの、ロットの都合から旧市町村内5カ所の一時収集場所から苗箱、波板、マルチフィルム等混載した状態で農協が収集運搬している。

このことが再生処理に向けた処分を困難にしている。（現状は、一部を除き埋め立て処理されている）

### （2）今後の方向

・愛知経済連の園芸資材課が調整役となり、再生処理向けに分別して収集日を設定しているJAひまわりと回収日を併せて、①農ビ、農ポリの分別 ②北設センターから運搬することについて、今後、契約産業廃棄物運搬業者を交えて効率的な方法を検討するとのことであった。